

編集部の
授業見学レポート

教材名

北川さんの悩み

教科書

2 年 P.112~116

実践者

山崎達也 先生
千葉大学教育学部附属中学校 教諭

授業見学にあたって

◆ 中学 2 年生にもなると、多くの生徒が、授業や学校行事などで、お互いの主張がぶつかり合い、物事が前に進まない経験をしたことがあるでしょう。ただし、ほとんどの場合、クラスメートか年の近い人どうしの衝突で、それぞれの立場が大きく異なる状況で対立した経験はあまりないと思われます。今回の教材では、立場が異なる状況で対立した場合、生徒は何を大切にしたいと考えるかに注目しながら拝見しました。

授業の概要

◆ 生徒数：30 人程度

◆ 教材のあらすじ：1 か月に 1 回行われている町内会の地域清掃で、北川さんは班長を任されています。地域清掃後はフットサル同好会に参加したい北川さんにとって、終了時刻を大きく過ぎてしまうことがある関さんは困った存在。代わりを申し出ても、自分の力で社会に貢献したいと考える関さんは、その申し出を断ります。お互いに、自分の考えを理解してもらえず、もやもやした気持ちを抱えていましたが、1 か月後には、にこやかに会話をしながら掃除に取り組む北川さんと関さんの姿がありました。

当日の授業の流れ		
	学習活動／先生の発言／生徒の発言・様子	編集部のまなび／指導の工夫
導入	前時の振り返り／導入〈5分〉 ●前時の授業（「テニス部の危機」光村図書）の感想を紹介します。 「互いの主張をきちんと理解し合うことが大切だと思った」 「自分の部活の後輩は、言いたいことが言えているのか、改めて考えるきっかけになった」 「どうしたもんかなあ、むずい」 ●今日は、「相手の立場になって考えよう」というテーマについて、みんなで考えたいと思います。	◆前時の道徳科の学習記録から、本時に生かせる感想を、全体に共有する。
	展開 「北川さんの悩み」を読む〈3分〉 ●「まる読み」（句点で交代しながら音読すること）しましょう。 （「北川さんの悩み」を、句点で交代しながら、順番に音読する。） 「北川さんの悩み」の状況を整理する〈5分〉 ●「北川さんの悩み」の場面と状況を整理しましょう。 - 地域清掃 ○地域清掃とは何ですか。 - 家の周りを掃除する。 - 近所の人とやる。 ●この話の登場人物は誰ですか。 - 北川さんと関さん。	◆自然と生徒から発言が出ており、誰もが話しやすい教室の雰囲気を作られていた。 ◆状況整理の発問とそれに対する応答は、この後の話し合い活動に十分な時間を割くことができるよう、てきぱきと進めていた。

	北川さんと関さん、それぞれの言い分を確認する〈3分〉 ●北川さんと関さんのそれぞれの言い分を整理しましょう。 [北川さん] - 関さんが遅いから、いつもフットサルの参加が遅れてしまう。 - 早く掃除を終わらせたい。時間通りに行きたい。 [関さん] - 今やれることを、しっかりとやりたい。 - 定年退職して 10 年。たぶん 75 歳くらい？ だから社会貢献をしたい。 - 体がよくない。腰とか痛いんじゃないかな。	◆本文には書かれていない登場人物の様子や状況も想像しながら、北川さんと関さんの言い分を整理していた。
	北川さんと関さんになったつもりで話し合いをする〈10分〉 ●1 か月後に二人は笑顔で掃除に取り組んでいるのは、なぜでしょう。 - 仲直りした。 ●どうして仲直りすることができたのか、北川さんと関さんになったつもりで、ペアで話し合いをしてみましょう。 （ペアで北川さん、関さんを決めて、話し合いをする。）	◆一部生徒はざわついたが、いざ話し合いを始めてみると、生徒はなりきって活動した。照れが生じて恥ずかしくなるかと思いきや、むしろ楽しみながら取り組んでいた。
	話し合った結果をクラス全体で共有する〈6分〉 ●話し合ってみて、どうでしたか。和解できましたか。 （ほとんどの生徒が挙手をする。） （4 組が）むしろ陰悪になった。 ○陰悪になったのは、どうしてですか。 - 一方的で、口が悪かった。 - うるさかった。 - 一方的に打開策を提案しただけになった。	◆あえて陰悪になったペアの事例を共有することで、リアルな葛藤の姿を見せようとしていた。また、解決に至ったペアにも考え直す機会を与えていた。 ◆生徒の発言を受け止めながら、考えを深めるよう工夫していた。
	お互いにわかり合うためには、どうしたらいいのかを考える〈10分〉 ●実際に話し合いをしてみて、皆さんはこういうときにどうしたらいいと感じましたか。 - 自分の考えを伝え合うこと。 - 理解し合おうとする姿勢を見せること。 - どちらの意見も大事で、納得できるから、進展しなかった。 ○どちらの意見にも納得できると、話し合いは進展しないのですか。 - 片方の主張を押し付けるんじゃないくて、どちらも納得しないと、解決策は生まれない。 - 他の人の意見に一理あるとは思うけど、全て納得できるわけじゃない。 - 納得しちゃうと、我慢することも出てくる。	◆相互理解について、数名の生徒が「他者の意見の全てに同意できるわけではない」という趣旨の発言をしていた。自分の考えを率直に表現する力や多面的・多角的に考える力が育まれているように感じた。 ◆どちらの主張も理解できるものだからこそ、互いの主張の折り合いをつけることの難しさに、生徒が気づいていた。
終末	資料を読み、改めて立場の異なる相手と関わるときに大切なことについて考える〈8分〉 ●資料「立場の異なる人と同じゴールを見つけ出す」(教科書 P.115)を読みます。 （朗読を聞く。） ●資料を読んでみて、改めて北川さんと関さんの問題について、どのように考えましたか。 - 北川さんと関さんの場合と、資料とでは、そもそもの土台が違う。 - 資料は同じゴールがあるが、北川さんと関さんは同じゴールがない。 ●終わりの時間が近づいたので、振り返りを書きましょう。 （振り返りシートに記入する。）	◆「資料」を読んだことで、生徒は、相互理解に必要な「お互いの共通のゴールをもつ」という考えにたどりついたようだった。 ◆教材の内容について、先生と議論し合えるのも、普段からどんな発言をしてもよいという安心感があるからこそだと感じた。